



とくしま元気印 イノベーション 人材育成プログラム ニュースレター

Vol.4
2018.7

CONTENTS

- 平成 29 年度事業全体の取組と総括
- 中間評価の結果について
- コンソーシアム設立に向けて
- 第 6 回とくしま元気印イノベーション人材育成協議会の実施報告
- 平成 30 年度実践力養成型（寺子屋式）インターンシップの取組
- 平成 30 年度創業支援事業の取組
- 平成 29 年度徳島の魅力、徳島で働く～徳島で働くためのガイダンス～実施報告
- 平成 29 年度 FD 地域人材育成フェスタ実施報告
- 今後予定の事業



【徳島大学】インターンシップフェア
(4/26 開催)の様子

平成 29 年度事業全体の取組と総括

5年間のCOCプラス事業の3年目となる平成29年度は、事業の本格実施の年となりました。本事業の中核である寺子屋式インターンシップの開発は、昨年度の試行を踏まえて正規の教養科目として開設して実施しました（詳しくは次ページ）。また、6つの高等教育機関が連携して開講する共同授業「徳島の魅力、徳島で働く」も、8月に夏期集中講義として正式に開講することができました。さらに四国大学の創業支援事業も3年目に入り、充実してきています（詳しくは3ページ）。「徳島の魅力、徳島で働く～徳島で働くためのガイダンス～」12月、「FD地域人材育成フェスタ」3月も、昨年度の実績を踏まえて改善・拡大して実施されました。また、平成29年度は中間評価の年でしたが、良い評価を受けることができました。

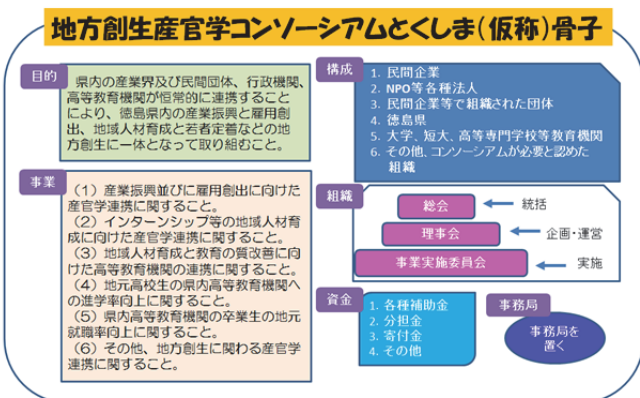
中間評価の結果について 徳島大学理事（地域・産官学連携担当）・副学長 吉田和文

日本学術振興会「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業委員会」により実施された中間評価では、最高ランクの「S」評価をいただきました。これは「計画を超えた取組」であり、事業目的を「十分に達成することが期待できる」というものです。COC+事業は全国の42大学が主管校となって進められていますが、その中で「S」評価は5校（12%）のみです。その他は、「A」が22校、「B」が15校でした。特に評価されたのは、地域で雇用創出が期待できる4つの分野に即した教育カリキュラムの編成と、インターンシップ開発の取組でした。ただし、今後に向けた留意事項として、現在の産官学で構成する事業協働機関を活かしコストシェアも考慮した上で、予算・体制を含めた具体的な後継事業計画の作成・検討を進めることが求められました。このことから、残りの2年間をかけてCOC+事業を進める恒常的機関としてのコンソーシアムの具体化が課題となります。

コンソーシアムの設立に向けて 徳島大学COCプラス推進監 玉真之介

今後、検討していくコンソーシアムは、徳島県の産官学を結集した社団法人を目指します。そのためにも、なるべく敷居を低くして、参加しやすい形態を考えたいと思います。目的とするのは、徳島県内の雇用創出と地域

人材の育成ですが、特にインターンシップのコーディネートを事業の柱に据えたいと考えています。このインターンシップは、学生の地域人材としての能力開発はもちろん、COC+事業が開発してきた受け入れ機関の経営イノベーションにつながるインターンシップとして進めていきたいと考えています。なるべく、多数の機関に会員として加わってもらった上で、高等教育機関と行政、民間企業団体とで理事会を構成して組織を運営していくことを考えたいと思います。今後、様々な方から助言をいただきながら、今年度中に具体的な案を作成したいと考えています。



第6回とくしま元気印人材育成協議会の実施報告

5月14日、「第6回とくしま元気印イノベーション人材育成協議会」が、徳島市の徳島グランヴィリオホテルを会場に開催され、徳島県内の高等教育機関や徳島県、県内企業、関連団体、NPOなど50の事業協働機関の代表者や関係者、約70名が参加しました。

本協議会では、事業概要とこれまでの進捗状況、中間評価でのS評価獲得についての報告に続き、平成29年度に実施した取組として、本事業の参加機関による協働事業「参加校共同授業」、「企業ガイダンス」、「FD地域人材育成フェスタ」について、各高等教育機関における取組として、徳島大学の「ボランティアパスポート」、「実践力養成型(寺子屋式)インターンシップ」、四国大学の創業支援事業「とくしまサイコー塾」、「とくしま学生ビジネスプラン道場」、「社長のかばんもち」についての報告が行われました。また、協議事項として平成30年度の事業計画案及び「地方創生産官学コンソーシアムとくしま(仮称)」の構想についての説明がありました。

今年度は新たに11機関が事業協働機関として本事業に参画され、各機関よりコンソーシアムの設立や事業の継続に向けて様々な意見をいただくことができ、本協議会の今後について認識を新たにしました。



【協議会の様子】

平成30年度実践力養成型(寺子屋式)インターンシップの取組

徳島大学では、教育カリキュラム改革の1つとして、寺子屋式インターンシップのさらなる改善を進めています。寺子屋式インターンシップとは、受入企業・団体側にはメンターを、大学側にはドン(学内メンター)を配置し、相互が密に連絡を取合い、事前学習から事後の振り返りまで「課題・レポート・ディスカッション」を繰り返す「寺子屋式指導法」を取り入れた少人数制の課題解決型インターンシップです。

この、企業・団体が抱える課題に対し企業・団体と学生が協働してミッションの解決を目指す「実践力養成型(寺子屋式)インターンシップ」は平成28年度の試行実施から今年度で3年目を迎えました。

4月26日(木)に本インターンシップの受入企業・団体から参加希望者に対してプロジェクトの紹介を行う「インターンシップフェア」を開催し、16機関((株)テレコメディア/(一社)大学支援機構/喜多野安心市/徳島県庁農林水産部水産振興課/(株)AWA-RE/(有)樫山農園/(株)ネオビエント/廣間組(有)/(公社)徳島県建築士会/(有)竹内園芸/(株)QLiP/エヌ・アンド・イー(株)/大塚テクノ(株)/(株)基/(株)NDK/四国放送(株))が参加しました。今回は、平成28年度、29年度の実践力養成型(寺子屋式)インターンシップ修了生23名がサポートに入り、相談・案内室を設けて、過去のプロジェクトの紹介を行ったり、来場者の案内、さらに、インターンシップ経験者として来場者の相談にも応じました。また、同フェアに参加できなかった学生を対象に、フォローアップ、追加説明会を3回実施すると共に、エントリーシート書き方講座を実施したところ、合計150名の学生の参加を得、うち45名が本インターンシップに臨むこととなりました。

平成30年度は、受入企業・団体16機関、インターン生45名、ドン(学内メンター)13名に加え、平成28年度修了生3名、平成29年度修了生6名の有志により立ち上げられた、インターンシッププロジェクトをマネジメントしサポートするチーム、IPP00(Internship Project Perform Outwork Operation)で取り組んで参ります。



【インターンシップフェアの様子】



【追加説明会を行う IPP00 メンバーの様子】



【受入企業・団体向け事前研修の様子】



【学生向け事前研修の様子】



【プロジェクト単位のミーティングの様子】

平成 30 年度創業支援事業の取組

四国大学では、地域の高等教育機関や地域企業と連携して、「徳島で仕事を創り出す人材」を育てることを目的とした4つの事業を創業支援事業として実施しています。

【ビジネスサークル「とくしまサイコー塾」】

毎月（夏期・春期休暇を除く）第2木曜日の夜に四国大学、徳島大学、徳島文理大学で会場を持ち回り、起業家や業界のリーダーによる仕事観や起業した経緯に関するお話し、参加学生によるグループワーク等を行うセミナーを開催しています。講師の方達の経験や考え方、課題に挑戦する姿に触れることで多様な生き方や働き方があることを知ってもらい、固定的に捉えがちな就職観やその後の就業観に新たな選択肢の存在を認知し、自分の将来をより深く考え直すキッカケを提供します。

【社長のかばんもち】

起業や経営に興味を持ったが、座学ではなかなか知識やノウハウが得られない“社長の仕事”とはどういうものかを知っていただく為、県内の社長に3日から10日間つきっきりの状況をつくりだし、自身が経営者を目指す際の、一つの比較、判断の“軸”を提供することを目的としています。

【とくしま学生ビジネスプラン道場】

県内の学生を対象としたビジネスプランコンテストとして、創業支援クリエイターのブラッシュアップを受けながら、段階的、体系的にビジネスプランを創る方法が学べます。自ら生み出したアイデアを基に事業計画から市場調査、収支計画、マーケティングに至るまで、新事業創出に必要なノウハウを獲得しながら、新たなものを市場に提案していく為の技法を学びます。同世代の学生とビジネスプランを競い合うことで、県内の学生のビジネスに対する意識を高めることを目的としています。今年度は8月1日（水）に一次エントリーを開始、平成31年1月27日（日）に最終審査会を行う予定です。

【チャレンジショップ】

商売における全てを学生自身が実践するプログラムであり、実施にかかる設備、什器や材料の仕入れから水道光熱費などあらゆるコストも学生自身が負担します。今年度は6月の一ヶ月間、東新町商店街という厳しい立地環境の中、5チーム46名の学生が出店しました。学生自身が一ヶ月間、商売の全てを実践するといったプログラムが、県内初となる事業であることや、学生の準備段階の広報や実施期間中の努力もあり、多くの人達から注目される事業となり、期間中、東新町商店街に多くの人を呼び込み、大学の新たな地域づくりの可能性を示すとともに賑わいづくりに貢献しました。



【H29 年度最終審査会の様子】



【東新町商店街での様子】



平成 29 年度徳島の魅力、徳島で働く～徳島で働くためのガイダンス～実施報告

昨年12月16日、学生とその保護者を対象とする「徳島の魅力、徳島で働く～徳島で働くためのガイダンス～」を徳島大学で開催しました。本ガイダンスは「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」において、同プログラムに参画する県内の高等教育機関、徳島県、企業及び関連団体による協働事業として実施しているもので、平成28年度に続き2回目の開催となります。

ガイダンスでは、竹中淳二 徳島経済研究所の理事・事務局長による「データから見る徳島の未来」と題した基調講演、同プログラムの寺子屋式インターンシップを受講した学生3名によるトークセッションが行われました。

また、メインプログラムとして次世代技術、地域医療・福祉、6次産業化、地域づくり・観光・ICTの4分野関連企業の経営者の方々から、それぞれの分野や当該企業の経営戦略や人材ニーズ等の紹介が行われました。その後、参加者毎に4分野の県内企業等19団体が出展したブースでの個別企業相談会を行い、学生及び保護者に対し、それぞれの分野や企業の視点から県内産業界の動向や将来ビジョン、県内で働く・暮らすことのメリットを伝えました。

ガイダンスには、県内の大学・高専の学生に加えて高校生とその保護者約150名、大学や企業等の関係者約90名の計約240名が参加し、学生等が県内への就職を考えるうえで非常に有意義な場となりました。



【トークセッションの様子】

平成 29 年度 FD 地域人材育成フェスタ実施報告

3月3日、連携高等教育機関や行政職員、徳島県内企業等を対象とした「平成 29 年度 FD 地域人材育成フェスタ」を開催しました。今年度は、平成 29 年度の COC+事業における成果や課題を報告するとともに、今後の事業の進め方や県内就職率向上に向けた取り組みについて協議する目的で行われました。

メインプログラムでは基調講演があり、株式会社電腦交通 代表取締役の近藤洋祐氏から「創業期を支えた学生とそこに求めた人物像・もたらした効果等について」と題してご講演頂いたほか、四国大学の創業支援事業や、徳島大学の「実践力養成型（寺子屋式）インターンシップについて、各担当者と実際に関わった学生や企業担当者等から、それぞれ成果報告がありました。また、プログラムの最後には「地方創生産官学コンソーシアムとくしま（仮称）構想」の説明の後、県内企業と行政機関、大学教職員の間でワークショップが行われ、産官学が地域人材の育成及び確保をするための連携について熱い議論を交わしました。

参加された方々に各分野の立場からご意見を頂き、産官学連携のきっかけとなる非常に有意義な時間となりました。



【近藤氏による基調講演の様子】

今後の予定事業

【協働】共同授業（集中講義）「徳島の魅力、徳島で働く」（平成 30 年 8 月 20 日～23 日／徳島大学）

昨年度から引き続き、地元で働くことのやりがいや暮らしの楽しさについて、徳島県内で働く地域の識者や若手から学ぶ集中講義を開講いたします。対象は大学生だけでなく県内の高校生も含まれ、今年度は徳島県西部と南部の高校に通う高校生を対象に遠隔地でのサテライト配信も実施します。また、講義の内容も昨年度からパワーアップし、学生間での議論がしっかりと行えるようグループワークの時間も重視した講義となっています。

【協働】徳島の魅力、徳島で働く～徳島で働くためのガイダンス～（仮）（平成 30 年 12 月中旬／徳島大学）

徳島県内の大学、高専の学生、保護者を対象に、県内企業の将来ビジョンや、徳島で働き暮らすことの魅力について、様々な視点から学生及び保護者への周知を図ります。本ガイダンスでは、企業名や会社の規模だけでなく、業務内容やワークスタイル等で就職先を選ぶ新たな視点を伝達することを目指しています。

【四国大学】ビジネスサークル「とくしまサイコー塾」定例会

毎回県内の起業家や業界リーダー2名を招いて、講演と参加学生によるグループワークを行います。

第 21 回定例会 平成 30 年 7 月 12 日（木）

第 22 回定例会 平成 30 年 10 月 11 日（木）

第 23 回定例会 平成 30 年 11 月 8 日（木）

【四国大学】「社長のかばんもち」（随時）

県内企業と学生とのマッチングを随時行っています。

【四国大学】「とくしま学生ビジネスプラン道場」

平成 30 年 8 月 1 日（水）から一次エントリーを開始します。

【徳島大学】実践力養成型（寺子屋式）インターンシップ（通年）

正規科目として目下施行中です。

事務局だより

今年度は実践力養成型（寺子屋式）インターンシップの中で IPP00（internship project perform outwork operation）が立ち上がりました。インターンシップのプロジェクトをサポートしていくことを目的とした、昨年度までの本インターン修了生による有志のサポートチームです。自分たちの経験をもとにプロジェクトで起こる様々な事態を事前に予測しながら、プロジェクトの完遂に向けてサポートを行うと共に、プロジェクトマネジメントのスキルの習得を行います。このニュースレターを読んで COC プラス事業に興味を持たれた方は、ぜひお気軽に下記事務局までご連絡ください。



徳島大学 COC プラス推進本部事務局（研究・社会連携部地域創生課内）

徳島市南常三島町 1 丁目 1 番地（地域創生・国際交流会館 3F）

電話：088-656-9885 FAX：088-656-9880

e-mail：coc-plus@m1.tokushima-u.ac.jp

